

僕たちはずっと
檻の中で苦しんでいた。

枠の中にいる君 枠の外で待つ僕

00 問う

人間は疑問を持ったらなぜそうなるのか解明したくなる生き物だ。数学的な問が投げかけられると答を求めようとする。答を導くには四則演算という一種の道具を使わなければならない。当然道具を使うだけではダメである。その問題の本質を掴まなければ答に辿り着くことは困難であるからだ。

これは数学に限った話ではない。現代社会も同じようにあらゆる物事に対して本質を掴まなければならない。

03 What is your type?

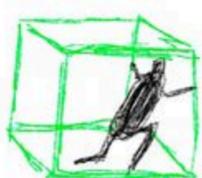
人の性格を16の種類に分ける「16personalities」という性格診断が日本だけでなく世界で流行っている。16のタイプに分類することで自身の強み、弱み、人間関係の相性などがわかるものだ。自分を見つめ直す用途としてふさわしいもののはずが、真に診断結果を受けて生活しづらくなる人が多い。診断結果のタイプという枠組みの中に入り、「あの人は〇〇のタイプだから…」 「私は〇〇のタイプだから…」と表面上の枠組を見るだけで本質を得ようとせず、対人関係を通して生きづらくなっているのではないだろうか。まるで檻の中で心を閉ざしたかのよう。

本来カテゴリ化することで自身のアイデンティティを獲得するもののはずが逆にアイデンティティを損失していると考える。

04 コンセプト

カテゴリ化を通して枠にはまりながら生きるこの現代社会を「16personalities」を用いた上で建築を通して創造する。

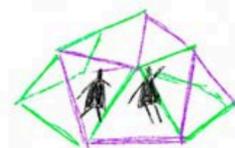
本来見えない枠を視覚化した世界である。ここで生きる人間はタイプ診断結果から自分に該当する容積8立方メートルの枠組の中に入り、移動する際は常に枠とともに移動しなければならない。タイプ診断の結果から相性が高いタイプを見つけて生活する行為を行う。



出会う
表面上のやりとり



知る
枠を道具として共有する



共に生きる
この世に一つの新しい枠を作る

01 本質

情報が飛び交う現代において、本質を見抜くことがなくなりつつあると実感する。SNSの普及により、他人と比較して自分が『優』か『劣』か枠組みを作ってカテゴリ化をする。都合のいいようにカテゴリ化することで自分の居場所を作って安心感に浸る。枠の中に自分が入り表面上でやり取りを行うことで本質を掴めなくなりつつある。

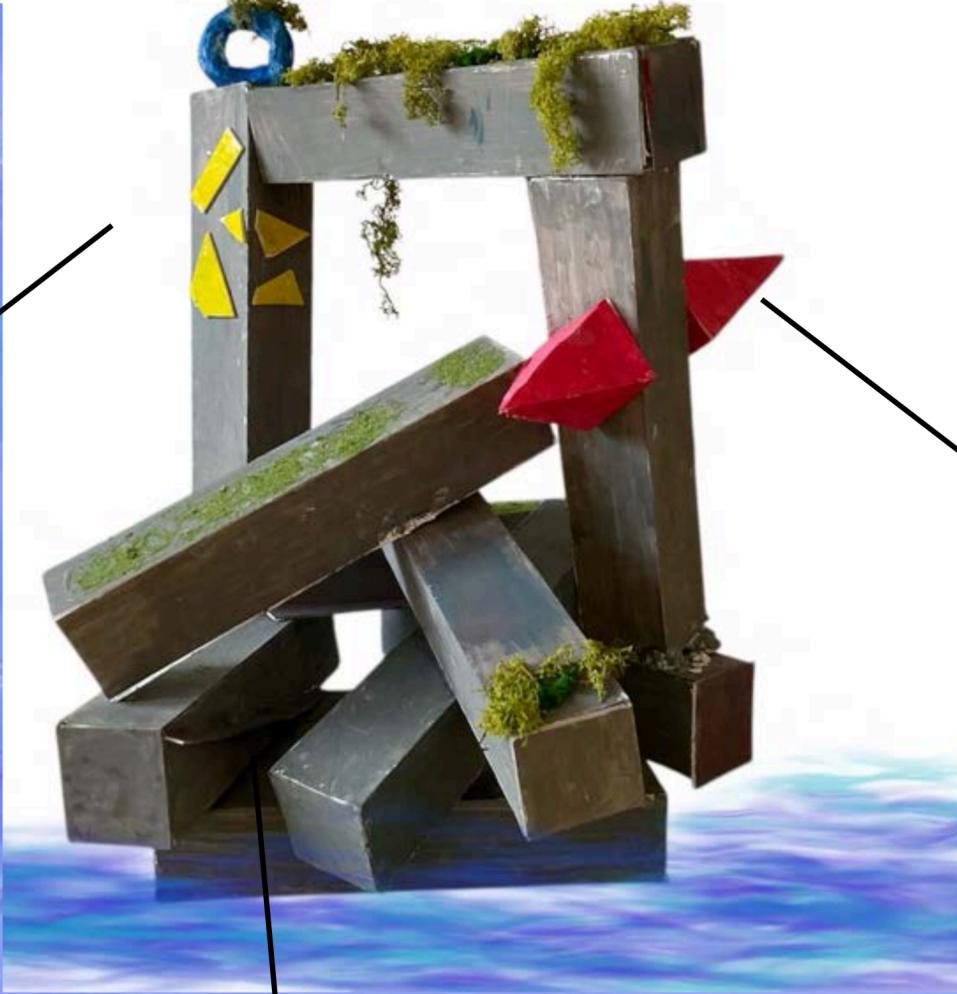


intj		infj
intp		infp
entj	分析家	enfj
entp		外交官
istj	番人	探検家
isfj		istp
esfj		isfp
estj		estp
		esfp

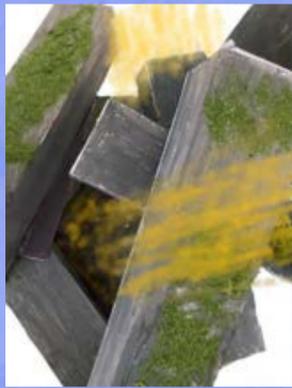
ここは誰も知らない海の上に埋め立てられたコンクリートの島。無機質で冷たいコンクリートの中で生きる。現代社会を比喩した複雑な構造は現代社会の息苦しさを表している。



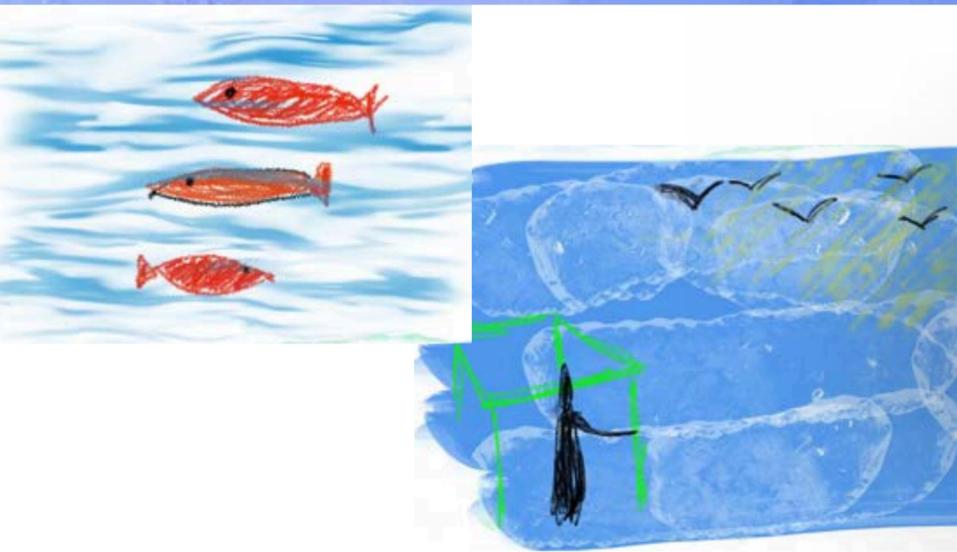
僕らが見ているものは全て正しいのだろうか。社会が「四角形」と定義づけていたとしても本質を探れば丸なのかもしれない。そもそも立体ではなく平面なのかもしれない。



ここで生きる人間は対人関係に必死で周囲の環境がわからない。コンクリートの表上の表面しか知れず、この世界の全体像の本質が掴みきれないまま生命を終えることになる。

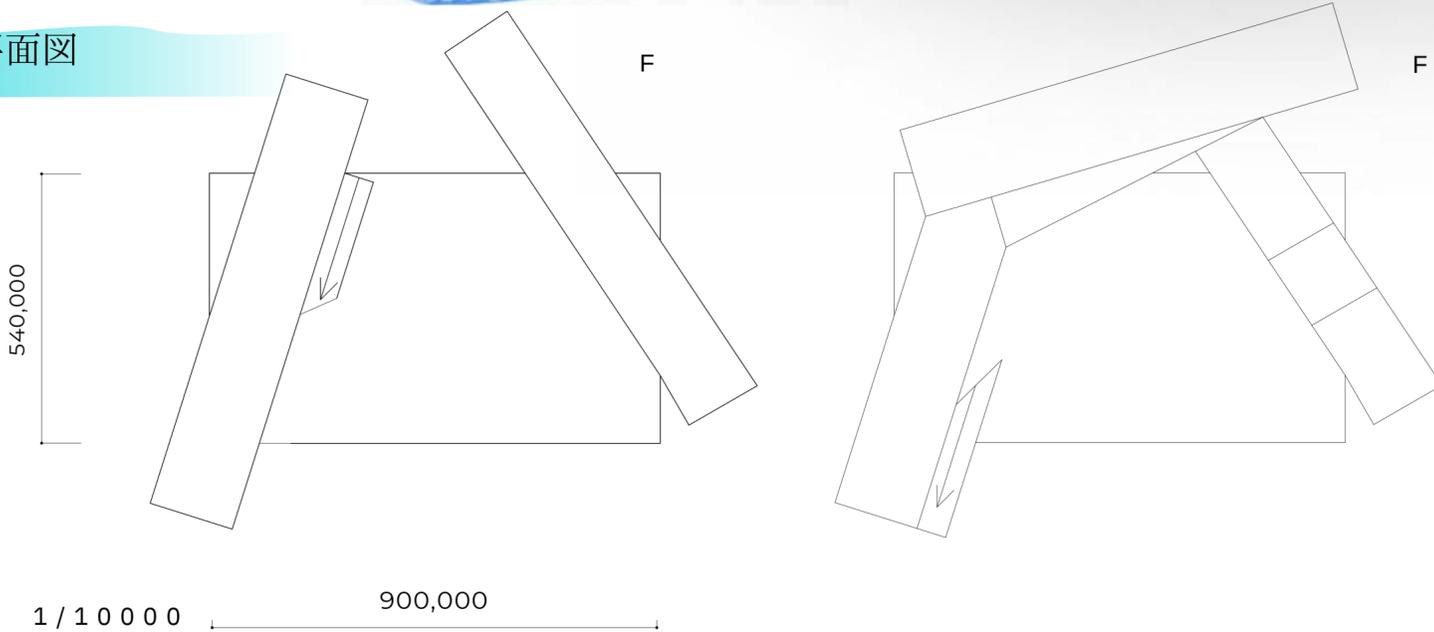


人間はコンクリートが積まれた下で生きる。コンクリートの間から差し込む光が多様性を表す。だが、この世界で生きる上では本質を捉えることのできない人間が集まるため、もはや関係ない。



枠に囚われすぎて
いつしか空の青さも
海の深さも忘れてしま
った…

平面図



04 解釈

この世界は都合よくあらゆるものをカテゴライズする。これは人間の生物学的本能である。しかし、現代において過度なカテゴライズ思考により、アイデンティティを損失しかねない。枠は社会の居場所を作る安心感に浸れると同時に檻という苦しみにも変わる。情報社会で情報が飛び交う現代においてこの状況を止めるには自分の軸を持って周りに流されずに本質を探る必要がある。数学で四則演算という道具を使って本質を探るように現代社会も対話という道具を用いて物事を解釈する必要がある。